



### ■ 台湾輔仁大學医学部に留学生を派遣しました

佐賀大学医学部が台湾輔仁大學医学部（台湾台北市）と国際交流協定を締結し、交換留学を開始したことは、6月の本通信でご報告したとおりです。このたび、初年度の交換留学生を派遣しました。

台湾ではかつて日本統治時代の影響から、日本同様の旧ドイツ式の伝統的医学教育が行われてきました。現在、両国とも米英式の実践的医学教育への転換を図っているという点で、方向性を同じくしながらも、医学教育の現状には様々な差異があります。それは文化的背景であったり、高等教育環境であったり、いくつもの要因がありますが、違いばかりが反映する欧米への留学と比較し、共通性の中に特殊性が見える台湾への留学は、日本のあり方にも理解を深める機会となっていると感じられます。

全体として本事業を振り返ってみて、初年度としてはこれ以上ない成功であったと評価しています。輔仁大學側の受け入れ態勢も素晴らしいものがあり、今後、佐賀大医学部の国際交流を推進していく上で、台湾への派遣は中心的場になると推察します。地理的にも近く（飛行機で福岡から2時間）、時差も1時間で、アジアの中でも非常に親日的な環境で安全性が高いことは、留学に最適といえます。

来年度は、6年次学生を対象に6月に実施する予定で、参加人数も3名に増員できる見込みです。ふるって応募下さい。（小田康友）

### ■ 輔仁大学臨床実習留学について

この度9月7日～22日の2週間に渡り、台湾でのクリニカルクラークシップをさせて頂く運びとなりましたので、ご報告申し上げます。

1週目は新光吳火獅紀念醫院、2週目は天主教耕莘醫院にて実習を行いました。期間中、家庭医療科、産婦人科、形成外科、救急科、血液透析部門、放射診断科、中医学部門、自然生殖部門と多くの科で見学をしたり講義を受けたりすることが出来ました。

日本と台湾の大きな違いの一つとして、台湾では医学書の中国語訳書がないため、講義やPBLはもちろんカルテも全て英語が用いられていました。止むを得ずとは言え数年の英語でのトレーニングを受けた彼らの英語力は皆とても高く、恵まれた環境が必ずしも良いわけではないことを考えさせられました。

期間中、交換留学にて来佐した医学生を中心に、毎日様々な場所に案内して頂き、台湾の景色や食事、アクティビティを楽しむことが出来ました。また実習外にて台湾の医師や医学生達と様々なことを語り合う時間も非常に有意義なものであり、多岐に渡る生の台湾文化を学ぶことが出来ました。また、留学中に中秋節を迎え、独特の風習を体験することが出来たのも貴重な経験であったと思います。

私はこれまで医療英語の勉強に人一倍努力を重ねて来ましたが、今回の留学はその成果を確認する大きな意義のあるものとなりました。と同時に、自分の今後のキャリア形成のため

に必要な課題も数多く発見することが出来ました。この経験を生かし、これから医師としての将来に向けて更に研鑽を積んでいきたいと思えます。

今回の海外実習は本当に素晴らしく貴重な経験であり、このような機会を賜るに当たり尽力頂きました皆様に感謝してもし尽くせない思いであります。今後とも私のように素晴らしい機会を得られる後輩が増えることを願って止みません。重ねて関係各位の皆様に深く御礼申し上げます。

（医学科5年 深川恵理）

今回の実習内容で印象に残ったのはやはり中医学、そしてnatural procreative OPDでした。

中医学は日本では経験できないものなので、とても楽しみでした。先生の診察の仕方も初めて見るものだったし、薬局にはさまざまな漢方の材料が並んでいて、鍼治療の手技を実際に見るのも初めてで、驚くことばかりでした。

Natural procreative OPDでは外来を見学させてもらうことはできませんでしたが、その理論自体はとても興味深く、成績も他の不妊治療に劣らず、むしろ他の不妊治療をあきらめた夫婦がこの方法を頼るケースもあるとのことでした。

また、family medicineのhome careとmobile medical careも大学病院ではあまりなじみのない分野ということもあり、採算は考えているのだろうか、日本にこのような支援体制はあるのだろうか、と様々な疑問が浮かび、ただの見学で終わることなく、私にとって興味がわく内容でした。そして何より利用者の方との距離が近く、おそらく世間話だろうと思われることを楽しそうに話されるので、台湾語が分からないのが残念でなりません。せめて内容でも理解できればもっと楽しかっただろうに、と思います。

それから医学部内を見せていただくこともできました。特に興味深かったのは解剖学教室で、輔仁大学では医学生は1学年50名ほどで、1学年で解剖できるご献体は5体。1班に10人前後の学生が割り当てられ、解剖実習前の休暇中にそれぞれのご献体について生前どのように生き、何が好きで、どんな考えを持っていたかなど丁寧に調べ、解剖実習開始直前に式典を執り行います。式典はカトリックと中国の伝統を織り交ぜたような式で、簡易化されたミサを基本として、その中に日本でいうお線香をあげる場面があり、カトリック系の大学ではない私たちにはとても新鮮な体験でした。

2週間という短い期間でしたが、多くの方にお世話になり、大変楽しい時間を過ごすことができました。このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。

（医学科5年 田口寛子）

#### 教育広報部会

小田康友、市場正良、吉田和代、江村正、幸松美智子、本間治

ご意見をお待ちしています([oday@cc.saga-u.ac.jp](mailto:oday@cc.saga-u.ac.jp))

